

いつ
でも

No. 1 3 源氏ろまん

宇治十帖の世界に遊ぶ

自然

歴史

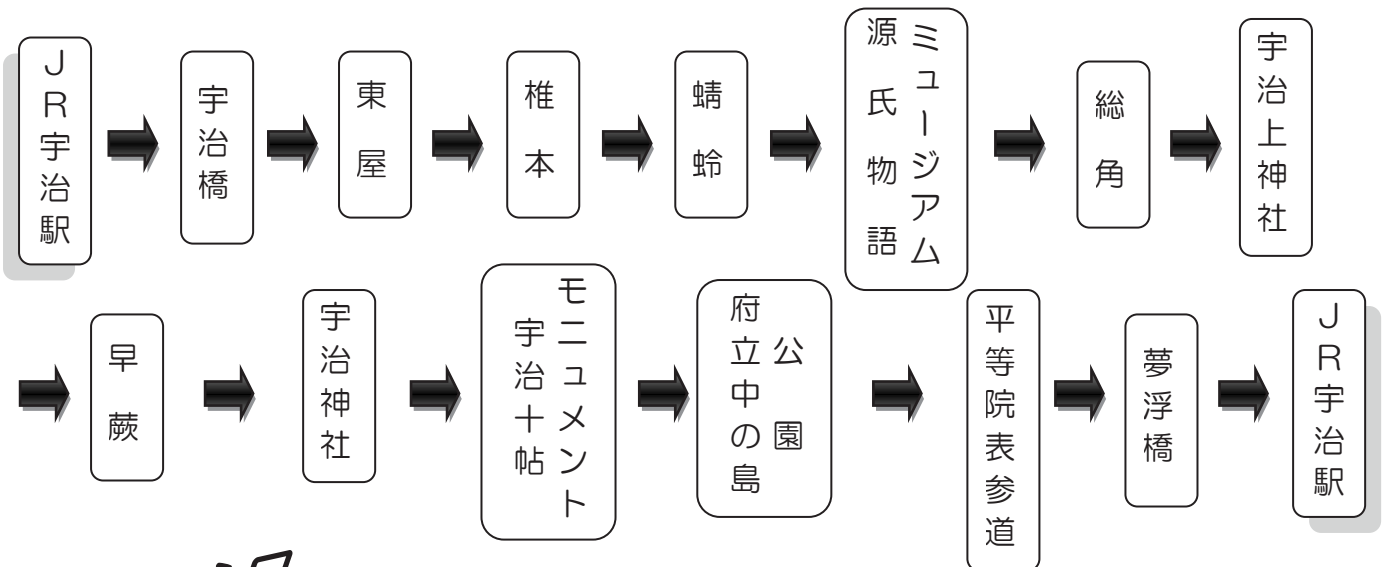
源氏物語

おすすめポイント

千年もの昔、藤原道長の娘彰子の女房として仕えていた紫式部による、世界に誇る長編小説源氏物語五十四帖、その最後の十帖は、この宇治を舞台に書かれています。

この宇治十帖の古跡をゆっくり歩いて、光源氏の子といわれる薫君、そして孫の匂宮、さらに宇治に住むという三人の姫君の実らぬ恋の物語をひもといてゆきましょう。

橋姫で始まり、夢浮橋で終るといふ宇治十帖は、川霧に煙る宇治川の周辺に、いつのころからか古跡が立てられ、私たちを王朝文学の世界へといざなってくれます。



ここに注目



●夢浮橋ひろば

源氏物語のイメージを広めるためにこの地に設置された紫式部の石像と宇治十帖最後の『夢浮橋』の古跡があり、背景に宇治橋が見えて周囲の景観を楽しむ『源氏物語のまち宇治』のシンボリックな観光名所の一つである。



●源氏物語ミュージアム

1998（平成10）年に『源氏物語をテーマにしたまちづくり』の中核拠点として開館された宇治市の施設。古今東西の源氏物語の文献、資料をそなえた図書室を持ち、源氏物語の世界を体験できる源氏ファン必見のミュージアムである。

